

氷見市議会産業建設委員会会議録

令和3年12月8日(水)
氷見市庁舎議事堂委員会室
開 会 午前10時00分
閉 会 午前10時56分

- 1 案 件 令和3年12月定例会において産業建設委員会に付託されたもの
- 2 出席委員 5名
上坊寺委員長、稲積副委員長、穴倉委員、屋敷委員、荻野委員
- 3 委員外議員 萩山議長、小清水副議長
- 4 職務のため出席した事務局職員 串田事務局長、洲崎主査
- 5 説明のため出席した者の職、氏名
林市長、篠田副市長、東軒企画政策部長、森田総務部長、森川産業振興部長、釣賀建設部長、蔵田商工振興課長、赤倉農林畜産課長、浜本ふるさと整備課長、神代道路課長、堂田都市計画課長、足立上下水道課長、そのほか関係職員
- 6 傍 聴 人 3人
- 7 付 託 議 案 別紙付託案件表のとおり
- 8 経過及び結果
 - ・上坊寺委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
 - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、いずれの案件も全会一致をもって原案を可決することに決した(主な質疑応答は別紙のとおり)。
 - ・委員長報告は委員長に一任され、特筆事項は無しとした。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

令和3年12月8日

氷見市議会産業建設委員長

上坊寺 勇人

令和3年12月産業建設委員会付託案件表

令和3年12月8日(水)午前10時
氷見市庁舎議事堂委員会室

◎農林畜産課 10:00～

- ・議案第67号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第7号)中
農林畜産課所管に係る事項…………… 説明書P. 35

付託案件外 10:07～ 商工振興課

◎ふるさと整備課 10:33～

- ・議案第67号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第7号)中
ふるさと整備課所管に係る事項…………… 説明書P. 45

◎道路課 10:37～

- ・議案第67号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第7号)中
道路課所管に係る事項…………… 説明書P. 39

◎都市計画課 10:39～

- ・議案第67号 令和3年度氷見市一般会計補正予算(第7号)中
都市計画課所管に係る事項…………… 説明書P. 39

◎上下水道課 10:49～

- ・議案第68号 令和3年度氷見市水道事業会計補正予算(第3号)…………… 説明書P. 63
- ・議案第70号 令和3年度氷見市下水道事業会計補正予算(第3号)…………… 説明書P. 89

(注)財源補正及び節区分補正に係る説明は不要です。

主な質疑応答

<p>商工振興課 稲積委員</p>	<p>(付託案件外) ふるさと納税の返礼品について。 ふるさと納税の返礼品については、ブランド化されているブリや氷見牛などが人気とのことであるが、それらがどのくらいの割合を占めるのか。</p>
<p>蔵田商工振興課長</p>	<p>令和2年度の実績としては15,983件400,744,842円のご寄付があったが、①「ぶり」もしくは「鱺」と表示されているものは4,354件(27.2%)、1億1,510万円(28.7%)、うち「ひみ寒ぶり」と表示されているものは867件(5.4%)、3,083万円(28.7%)、②「鮮魚」と表示されているものは2,021件(12.6%)、8,340万円(20.8%)、③「干物」もしくは「一夜干し」と表示されているものは2,492件(15.6%)、6,120万円(15.3%)、④「氷見牛」と表示されているものは2,619件(16.4%)、5,652万円(14.1%)、⑤「氷見うどん」と表示されているもの1,641件(10.3%)1,842万円(4.6%)であり返礼品全体のうち13,127件(82.1%)、3億3,464万円(83.5%)となった。</p>
<p>荻野委員</p>	<p>ふるさと納税の返礼品の基準として、返礼品は「地場産品とすること」と総務省で定められているが、氷見市で水揚げがない「白えび」も返礼品に上がっているが、基準定義は大丈夫なのか。</p>
<p>蔵田商工振興課長</p>	<p>総務省が示す基準は、その地の産品とされ、その地で加工されたものなども含まれるため、特に問題はない。</p>
<p>荻野委員</p>	<p>今日現在、寒ぶり宣言が出ていないが、「ひみ寒ぶり」という名称の返礼品が挙がっている。平成27年度のように、寒ブリ宣言が出なかった場合は、この返礼品の取り扱いはどうなるのか。</p>
<p>蔵田商工振興課長</p>	<p>ふるさと納税の返礼品として「ひみ寒ぶり」にかかる品を申し込んでいただいた方には、ひみ寒ぶり宣言がされた後に送付する旨をお伝えしている。仮に平成27年度のように宣言がなされなければ、寄付者には違う品などに変更いただくよう連絡し、ご意向に沿うようにしたい。</p>
<p>荻野委員</p>	<p>「ひみ寒ぶり」は、ブランドをきちんと管理してこそ、品質が守られ、消費者から信用信頼を得られるもので、漁業者、漁協、仲買が一体的に取り組んでいるものである。そうした中、ひみ寒ぶり宣言が出ていない現状で、ふるさと納税の返礼品に、ひみ寒ぶりが上がっている状況は、ブランド管理の観点からいかがかと思うが。</p>
<p>蔵田商工振興課長</p>	<p>「ひみ寒ぶり」を返礼品とする場合には、しっかりとブランド管理された品をお送りし、信用を裏切らぬよう努める。</p>

稲積委員

令和2年度の返礼品は、ぶり、鮮魚、干物、氷見牛、氷見うどんの人気商品で占められ、その件数は13,127件(全体の82.1%)、金額で3億3,464万円(全体の83.5%)であるが、この中で安定的に供給できるのが、氷見うどんだけである。ひみ寒ぶりについては、たまたま令和2年度に37,593本と過去4年間平均の2.2倍の豊漁であったことに加え、コロナ禍の巣ごもり需要の影響もあり4億円の寄付金額が達成できたと思われる。

また、県の水産研究所が発表した今年のブリ漁の予測では、例年の7割ほどになると、先月公式に発表され、万が一、今シーズンの寒ブリ宣言が出なかった場合、当然、ぶり全体の個体数が絶対的に少なくなると予想される。

本市の返礼品はその時々漁獲量が予測できない、ぶりやひみ寒ぶりなどの鮮魚や干物のほか、個体数に限りのある氷見牛に大きく依存している。昨日の森川部長の答弁では、新たな返礼品の開発や、新規事業者の発掘により対処したいとのことであったが、ぶりに替わる新たな返礼品の開発や新規事業者の発掘だけでカバーできるのか。

蔵田商工振興課長

ぶりや鮮魚などの人気上位を占めている返礼品以外として、ハト麦茶やサツマイモ、稲積梅、地酒、お米などもそれなりの人気があり、1,254件、約8%の申し込みがある。また旅行や宿泊など体験型の返礼品も少しずつ増やしており、12月から楽天トラベルにてクーポンを追加するなど、新たな返礼品の開発に努めている。

一方、ビジネスサポートセンターで事業者の売上向上や販路拡大など伴走型支援を行うなど、アフターコロナを見据え第一次産品以外の返礼商品の開発、商品のブラッシュアップを進め、情報発信を行うことで安定した返礼品の確保、提供を継続したい。

稲積委員

ぶりや鮮魚の漁獲量の話だけでなく、それらを返礼品として扱っている事業者さんの声はお聴きしたことはあるか。

人気のある「鮮魚定期便」などは非常に手間がかかる商品であり、いくら魚があっても、商品にするためには人手と労力がかかり、これ以上は無理だという声も多数聞く。

そうした中、中長期財政見通しでは、ふるさと納税は4億円で推移させているが、あまりにも自然に頼った漁獲の希望的推測だけで、中長期的な歳入を見込むのは、危険ではないか。漁獲量が下がれば、間違いなく納税額は下がることとなり、ぶりが不漁であれば、ふるさと納税額は、1億円以上は減少する。

歳入は厳しめに、歳出は大目にとという考えならば、ふるさと納税額の下修正も視野に入れるべきではないか。新たな返礼品の開発や新規事業者の発掘だけ、ぶりの人気はカバーできるのか。結果的に、漁獲の減少により仕方がなかったなどという言い訳を聞きたくない。

<p>林市長</p>	<p>市としては、国で定められたふるさと納税制度を活用し、より多く寄付金を獲得し市の収入としたいところである。</p> <p>先の決算委員会でも話のあった国の財政が厳しさを増せば交付税額に悪影響が出るといった話もあるが、中長期見通しは、考え得る現行制度の一定条件のもとで試算しているため、毎年見直しながら進めていく必要がある。</p>
<p>都市計画課 荻野委員</p> <p>堂田都市計画課長</p> <p>荻野委員</p> <p>堂田都市計画課長</p> <p>穴倉委員</p> <p>堂田都市計画課長</p>	<p>安全安心とやまの住まい耐震化促進事業について。</p> <p>年間どの程度の申請があるか。</p> <p>昨年までの過去5年間の実績では3件あり、平成28年度に2件、令和元年度に1件、今年度は2件である。</p> <p>耐震化は建物の所有者への負担が大きいため、補助申請も意外と少ない印象であるが、本制度はどのようにPRしているのか。</p> <p>令和元年度からは、市内の対象建築物を所有している約7,000件にダイレクトメールを送付している。また、本市のホームページ、広報誌にて周知を図り、庁内に啓発ブースを設けている。</p> <p>(付託案件外)</p> <p>朝日山公園連絡道整備事業について。</p> <p>地元説明会を実施したと聞いたが、どのような意見が出され、どのような返答をされたのか。9月定例会での答弁で地元の同意理解は不可欠であるとあったが、同意理解を得る見通しはどうか。</p> <p>朝日山公園連絡道に関する地元説明会は11月26日に実施し、その際には地元住民の方々を中心に20名の参加があり、市が考えている事業の内容と趣旨を説明したもの。</p> <p>この事業が防災機能の拡充にどう繋がるのか、立体交差が必要なのか、既存の道路や公園の整備を優先すべきではないかといったご意見があった。事業を進めるにあたっては9月議会答弁で申し上げたとおり、地元を初めの関係者、地権者の方々の同意理解が不可欠であり、ご理解が得られなければ、当然事業の見直しも含めて検討してまいりたい。</p>